学習・教育目標	コミュニティデザイン学科では，ディプロマポリシーとなる以下の9つの学習・教育目標を定めています。 (A) 人間と社会，多様な地域に関する基礎的素養を身に付ける (B) 地域デザインに関する共通的リテラシーを身に付ける (C) 地域デザインに必要なソーシャルスキルを身に付ける (D) 地域デザインを専門とする職業人としての倫理観を養う (E) 地域社会の現状と成り立ちを幅広い視点から理解することができる能力を身に付ける (F) 地域社会の課題を発見するとともに，分析することができる能力を身に付ける (G) 地域の資源を新たなまちづくりに活用することができる能力を身に付ける (H) 新たなまちづくりに向けて制度を設計し制作を提案することができる能力を身に付ける (I) 地域で主体的・協働的に行動し，活力あるコミュニティの形成に貢献できる能力を身に付ける

授業科目名		授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目との関連 ディプロマポリシーの項目記号 達成目標（ディプロマポリシー）の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2,・・・,0.9, 1.0の数値で表す								
					A	B	C	D	E	F	G	H	I
初期導入科目		大学生活を送るうえで必要とされる，自主的かつ自律的な態度および学習の進め方を学ぶことができるように企画された科目である。	各学習・教育目標を達成する基礎として，新入生を大学における学習全体へと導く役割を担う必修科目である。	・日々の生活や学習における自己管理，時間管理ができるようになる。 ・大学という場を理解するとともに，学習を進めるうえで必要な知識，技能を身につける。 ・将来的なキャリア形成を見通しながら自己を認識し，それぞれの専門分野とつながりのある職業について学ぶことで，今後4年間の過ごし方について考え始める。		1							
リテラシー科目	スポーツと健康	集団的スポーツと個人的スポーツ(軽スポーツ的な内容を含む)から，学生は，希望の種目を受講する。自己の体力および心身の健康への認識を深め，運動する楽しさ，ストレス発散，技能の向上を図る。チームワークを高め，試合運営について熟知できるようにして，様々な人達と接する機会を増やしながら，グループ間での学び合いなど，社会・対人関係力の形成に努める。また，運動する楽しさや意欲的な学習への動機づけをも行う。 以上のカリキュラムによって，履修した運動種目の知識，技能の基本的な能力の修得を通し心身の健康を維持し，体力向上への意識づけを図るとともに今後に発展するコミュニケーション能力，リーダーシップの基盤を養成することを目指す。	生涯にわたる豊かなライフスタイルの形成に向けた心身の健康の重要性を，スポーツの経験を通して理解させる科目である。	身体・体力面（自己コントロール，適応力，耐性，自律性，達成感など）とともに社会・対人関係面（共感力，リーダーシップ，協調性，連帯感，コミュニケーションなど）における能力が身についている。	1								
	情報処理基礎	情報化社会で必要不可欠とされる情報および情報手段を主体的に選択し活用していくための基礎的な能力を学び，情報活用の実践力を養い，情報の科学的理解を深める。	すべての学生が共通的に持つべき情報リテラシーの修得を図る目的で企画された必修科目である。	情報社会に創造的に参画する素養を身につける。		1							
	とちぎ終章学総論	高齢社会に関する課題を自らの問題として捉え，高齢者と共に生きるため，また，自分自身も豊かな終章を生きるための知識について学ぶ。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性の基礎を身に付けるための科目である。	・人間がどのように老いていくのか，その生き方の多様性を理解し，関心を持つ。 ・高齢社会における生活をめぐる課題について理解し，解決策について考える。 ・自らのこととして老いや終章について考えることにより，人生を積極的に生きる意欲を喚起する。		1							
	英語	1年次において，「Integrated English A」では，Study Skills の養成後，Oral Communication とReadingを主とした4skills (speaking，listening，reading，writing) の育成を，「Integrated English B」では，Oral Communication とWritingを主とした4skills の育成を図る。2年次以降の「Advanced English Ⅰ，Ⅱ，Advanced English Ⅲ」の各クラスにおいては，基本的な英語運用能力を基に，個々の学生の興味に応じて，特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。 TOEICによりクラス分を行い，習熟度に対応した英語力養成を徹底し，入学時に英語能力が高い学生には，通常学生と異なるHonors Programを，4年間にわたり履修可能とする。 以上のカリキュラムによって，卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が，全学生の50%以上になることを目指す。	地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために，国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。	「読む」,「書く」,「話す」,「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに，文化的背景に関する知識についても学習することで，仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身についている。		1							
	人文科学系科目	哲学，心理学，文学，芸術，人文総合領域の領域からなり，これらの科目を履修することによって，人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学，心理学，文学，芸術の入門を学び，人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方，文学，文化，芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	1								

授業科目名		授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目との関連 ディプロマポリシーの項目記号 達成目標（ディプロマポリシー）の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2,・・・,0.9, 1.0の数値で表す								
					A	B	C	D	E	F	G	H	I
教養科目	社会科学系科目	日本社会のみならず，国際的な視野に立ち，それぞれの社会の理解を深める過程を通じて，我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し，現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力を養う。「法学領域」，「政治学領域」，「経済学領域」，「社会学領域」，「地理学領域」，「歴史学領域」の6領域に，これらの領域を横断する「社会総合領域」を加えた7領域の科目から，各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの社会科学系の科目である。	政治・社会・経済といった我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し，現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力，そこに主体的に働きかけ，よりよい社会を形成してゆく力が身についている。	1								
	自然科学系科目	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能，また，現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために，「数学」，「物理」，「化学」，「生物」，「地学」，「情報」の領域に関する科目，および，これらの複数の領域にまたがっている科目群から，各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	1								
	総合系科目	教室外活動の実施，大学内外からの講師の積極的登用，授業を一般市民に公開することによる社会との交流などを取り入れながら，アクティブ・ラーニングという新しいスタイルでの教養科目とする。教員と学生間，あるいは受講生同士の双方向型の討論等を積極的に取り入れた授業スタイルの課題解決型学習を中心とし，受講生の主体的な参画により，課題解決に向けた知の統合と実践を行う。さらに，企業等から提供される授業もあわせて実施し，現在および将来にわたり“あらたな社会”を創るうえで求められる行動的知性を養成する。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうち**の課題解決力の養成を目標とする科目である**	社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより，変化が激しい現代社会への視野を広げながら，持続可能な社会を創造するために必要な，科学的な根拠を備えた提案や行動に繋げられる課題解決力，行動的知性が身についている	1								
	初習外国語系科目	大学入学前に，それぞれの言語を学習したことのない初習者を対象に，「読む」，「書く」，「話す」，「聴く」力を養う「初習外国語基礎Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ」を開設する。上記科目を修得学生のために，各言語の基礎的能力を確認しながら，コミュニケーションやプレゼンテーションなどの実践的な能力の向上を図る「初習外国語応用Ⅰ，Ⅱ」を開設する。 一つの言語について6つ段階別授業を通して学ぶことにより，各言語の基礎的コミュニケーション能力を段階的に向上させることが可能である。また，「初習外国語基礎Ⅰ，Ⅱ」のみを履修することによって，自律的な語学学習スキルを獲得することも可能となる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの初習外国語系の科目である。	初習外国語について「読む」，「書く」，「話す」，「聴く」ことに関する基礎的能力，諸外国や異文化の多様性への興味・理解，地域的な視野を踏まえた幅広く深い教養と豊かな人間性，語学学習を通じた自律的な大学での学びの基礎が身についている。	1								
基盤キャリア教育科目		「自分がどんなキャリアデザインを描くのか，どんな大学生活を送ったらよいか，どんな職業選択をするか」を意識しながら学び，職業や働き方への理解や自己理解を深めていく。座学だけでなく，グループワークやインタビュー，外部講師のレクチャーを通じて社会との接点を持ちながら学ぶことを重視し，学生自身の行動や体験を通じたキャリアデザイン力の育成を図る。	学生の社会的・職業的自立に向け，必要な能力や態度(キャリアデザイン能力）の基礎を育成するための科目である。	変化する社会の中で未来を切り拓く知力と行動力を持ち，社会的・職業的に自立して新しい時代に自分らしく活躍することを目指す姿勢，職業や働き方への理解，自己理解を深めるために必要な知識・技能を修得し，自らキャリアデザインを行う基礎が身についている。	1								
専門導入科目	地域デザイン学序論A･B･C					1							
地域デザイン訪問		地域社会を自然，歴史，文化的側面から見つめ，これらと地域デザインの知識や技術，対応方策との関連について議論を深めることで，デザイン能力育成の端緒とする。このため，各学科で学外見学（実習）を実施し，地域社会のコミュニティや種々の施設，技術や対策の取組みに直接触れる機会を設ける。見学（実習）後には，学科混成グループに分かれて，地域社会の特性や課題についてグループディスカッションし，その結果を発表する。	学部共通の学習･教育目標「（B）科学技術と地域デザインに関する共通的リテラシーを身につけている．」に寄与する。（地域デザイン科学部の学習･教育目標については履修案内（地域デザイン科学部）等を参照）	地域デザインの現場に直接触れて，それについて調べ，感想･意見を述べることができる。グループで実在する地域デザインについて議論し，その成果を発表することができる。		1							
地域の姿と課題Ⅰ		市町村長や担当行政職員，金融業，建設業，サービス業，製造業等の各種企業，マスメディア，農林水産業，社会福祉や環境NPO/NGO等の実務者を外部講師として招いたオムニバス講座を提供する。地域社会の多様なステークホルダーから直接話を聞く機会を設けることで，地域の現状や課題について幅広い視点から理解する力を養うための導入授業。	共通専門科目として，「地域対応力」のうち，地域に向き合う力を身につける。学部共通のディプリマポリシー「（B）地域デザインに関する共通的リテラシーを身に付ける」に対応する。	問題探求や課題解決策の方法を追求するときに必要な，地域社会の多様な現状や課題 について幅広い視点から理解する。		1							

授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目との関連 ディプロマポリシーの項目記号 達成目標（ディプロマポリシー）の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2,・・・,0.9, 1.0の数値で表す								
				A	B	C	D	E	F	G	H	I
地域の姿と課題Ⅱ	地域の現状や課題とその対策および最新技術等についてオムニバス講座を提供し，幅広い視点か ら地域デザインについて理解する力を養う。「地域の姿と課題Ⅰ」より進んだ内容とし，より高い専門的レベルでの学習を目指す。	共通専門科目として，「地域対応 力」のうち，地域に向き合う力を身につける。学部共通のディプリマポリシー「(B)地域デザインに関する共通的リテラシーを身に付ける，(D)地域デザインを専門とする職業人としての倫理観を身につけている」に対応する。	問題探求や課題解決策の方法を追求するときに必要な，地域社会の多様な現状や課題 について幅広い視点から理解する。		0.5		0.5					
地域コミュニケーション演習	学科混成グループに分かれ，円滑な対人関係づくりの上で地域と連携するのに必要なコミュニケーションスキルを身につけるための知識と手法を学び，グループワーク等を通して学修した手法を実践し，手法の体験的な修得を行う。具体的には，地域の特性を数量的に伝える手法，論理的文章として伝える手法，地域の地理的特性を読み解く手法などを体験し，それぞれが独自に問いを発見しそれを表現できるようにし，地域でのコミュニケーションに必要な基礎力を養う。	学部のカリキュラムの基礎となる共通専門科目であり，必修科目である。コミュニティデザイン学科の学修・教育目標「地域デザインに必要なソーシャルスキル」に対応する。建築都市デザイン学科の「地域における多様な主体との間で意思疎通が図れるコミュニケーション能力を身に付ける」に対応する。社会基盤デザイン学科の学修・教育目標「(C)多様な主体や分野と意思疎通が図れるコミュニケーション能力を身に付ける」に対応する。	円滑な対人関係づくりの上で，地域と連携するのに必要なコミュニケーションスキルを身につける。			1						
ワークショップ演習／Seminar on workshop	1グループ4～6名のグループを形成して，実社会で必要となる，課題解決を進める上で必要なファシリテーションや目的に応じたワークショップのデザインについてその意義を学ぶとともに，ロールプレイなどの体験を通して実践的な技術を身に着ける。ロールプレイでは，宇都宮市の社会・地域課題を取り上げ，課題解決を協働で行うことを想定し，地域住民，行政，企業などの役割を演じるなど社会実相に即した模擬体験的な学習を行う。	本時は学部共通科目として，地域デザインに関する共通的リテラシーおよびソーシャルスキルを身に付けることを目標とする。	設定された課題解決に対する科学的で総合的な対策に向けて，グループで情報収集，討議，まとめ，発表を行う実践力を身につける。		0.5	0.5						
地域プロジェクト演習	「地域対応力」として特に重要な,コミュニケーション力,調査・分析力,プ?レセ?ンテーショ ン力,チームの一員として動く力(協働力)を養成することを目的としている。学科混成ク?ルーフ?に分かれて,これまで?に修得した学部の共通専門科目や各学科の専門科目の内容を総合して,地域における実問題 を扱った問題解決型の演習を行う。具体的には,宇都宮市を中心とした栃木県内の自治体など?を対象とし,自らの力で地域探索やヒアリンク?,各種調査を実施し,収集したテ?ータを分析し問題の原因 の特定や,それに対する解決策を提案する能力を身につける。各ク?ルーフ?か?携わる問題に応じ?て,それそ?れの分野の教員か?サホ?ートする。扱う問題対象は，各自治体と協働で取り組むことができるものとし，例えば地域ぐるみ子育て，孤立する高齢者の見守りや集う場づくり，フードデザート，自然環境や生物多様性の保全，地域資源を活用した観光振興等が考えられる。本演習を学修することで,実践的な総合力を向上させ4年次の「卒業研究」に繋げ?ることて?,まちつ?くりを支える専門職業人としての基礎能力を備えることになる。	地域デザイン科学部のディプロマポリシーのうち，(B) 地域デザインに関する共通的リテラシーを身に付ける (C)地域デザインに必要なソーシャルスキルを身に付ける (D)地域デザインを専門とする職業人としての倫理観を養うの修得に寄与する。また学科個別のディプロマポリシーに寄与する部分もあるので，これについては履修案内などを参照すること.	本演習て?は,地域対応力に必要な(1) 適切な調査設計や調査分析,(2) 地域探索にお いて自主的に行動し,具体的な解決策を提案,(3)ク?ルーフ?単位の口頭発表会において資料作成およひ?フ?レセ?ンテーションを,実践を通して身につけることを目標とする.			0.3	0.2					0.5
GIS演習	地理情報システム（GIS）は，社会統計や環境情報を始めとする地域の様々な空間情報を収集して整理するとともに，解析評価するために有効なコンピュータシステムである。本演習では，GISやリモートセンシングについて基本的な理論を学習するとともに，コンピュータを用いた演習を行うことで，地域の調査や研究でGISを実際に活用するために必要な初歩的な技能を修得することを目的とする。	●学部共通の以下のディプロマポリシーに対応する。・人間と社会，多様な地域に関する基礎的教養を身に付ける・地域デザインに関する共通的リテラシーを身に付ける●コミュニティデザイン学科の学習・教育目標「地域の資源を新たなまちづくりに活用することができる能力を身に付ける」に関連する。●建築都市デザイン学科の学習・教育目標「(3)人間と社会・文化，地域に関する教養を身に付ける」に関連する（建築都市デザイン学科の教育目標については，履修案内等を参照すること）。●社会基盤デザイン学科の学習・教育目標「(B)科学技術と地域デザインに関する共通的リテラシーを身につけている」，「(E)自然科学の基礎理論と社会基盤整備のための専門的な基礎知識が理解できる」の修得に寄与する（社会基盤デザイン学科の教育目標については，履修案内（地域デザイン学部）等を参照のこと）	・GISやリモートセンシングについて基本的な理論や応用分野が理解できること・既存の地域環境情報をGISやリモートセンシングを用いて分析し，結果の概要を地図で描くことができること・GISやリモートセンシングを応用し，地域デザインに求められる主題図を作成することができること	0.5	0.5							
地域デザイン倫理	地域デザインに携わる者は，重要な社会資本である社会基盤のデザインを通じて，社会や人そして環境などに対して大きな影響力を有しており，それらに対する責任や倫理観も確かなものが求められている．本講義では，高度に進んだ技術，巨大な組織，複雑に絡み合った利権構造から成り立っている現代社会における地域デザインに携わる者の立場，役割，義務，そして権利などを把握し，分析，判断することを学び，自らの倫理観を自ら確立することを学ぶ．また，研究をする場合の倫理についても併せて学ぶこととする.	学部共通の学習・教育目標「(D)社会基盤整備や地域デザインに関わる技術者としての倫理観を身につけている」に寄与する（学部共通の学習・教育目標については履修案内（地域デザイン科学部）等を参照のこと）.	1．現代における地域デザイン倫理の概念について理解すること．2．社会基盤デザインに絡む種々の事例を省みることにより，現代の地域デザインに求められている内容を理解すること．3．問題に直面したときの対応や解決方法などと，倫理観に基づき，各自がそれぞれ自ら判断し決定できること.					1				

授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目との関連 ディプロマポリシーの項目記号 達成目標（ディプロマポリシー）の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2,・・・,0.9, 1.0の数値で表す								
				A	B	C	D	E	F	G	H	I
International Political Economics	Since the end of the cold war at the beginning of 1990s, Three factors have affected the world economically as well as politically. First, globalization has interconnected the world more and more closely. Second, rapid technological development has changed industrial structure, financial businesses and daily life. Third, emerging economies have become more and more important in the world economy as well as politics. We will learn these changes and discuss benefits and issues brought about by them.	この授業は，全学共通科目の“Learning+1”が目標とする「英語運用能力や異文化社会およびグローバルな共存社会への知識を深め，国際的なフィールドでの実践力を身につける」と関連します。	This course provides participants with clear images of the current issues that the world economy is now facing and tackling with. In addition, based on the discussion of those issues in the class, participants are expected to have their own opinions about how to challenge with them.										
Global Management	This course provides students with the opportunities for critically reviewing and analyzing the on-going global challenges, beyond borders and across disciplines around the world. Through providing conceptual clarity and concrete case studies, students will be directed to understanding and drawing an overall picture of global issues. Students will also learn about some practical technics and tools for problem analysis, in order to analyze the global issues and seek the real global agenda.Globalization is a relatively new aspect, in association with economic activities, political interventions, social network and many more aspects beyond borders. Therefore, it is also critical to learn and explore about the new actors in the scene such as NGOs and Civil Society. The course will then finally explore the possible ways and alternatives of solution for global issues, examining the major key actors.	This course is related proactively to “Learning +1” as to gaining practical skills of English proficiency and inter-cultural communication, required for professionals in the international filed	At the end of the course with proactive attendance, students will be able to:- Clarify and understand roles of the actors in global issues- Address, demonstrate and analyze the current issues of globalization and the way forward										
Globalization and Society	In this course, we learn and discuss about what "globalization" is and what have been going on in this global society. This course introduces some basic ideas of "globalization" and "global issues" in local and global communities. Also, through some groupworks and workshops, some participatory learning skills of global education will be introduced so that we can understand those global issues and take actions for our common future.	この授業は，全学共通科目の"Learning+1"が目標とする「英語運用力や異文化社会およびグローバルな共生社会への知識を深め，国際的なフィールドでの実践力を身につける」と関連します。	The aim of this course is to think globally, act locally and, most importantly, to change personally. In this course, students are expected: 1) to recognize critical events and problems in the world as “global issues”,2) to analyze the causes and the connections with us and Japanese society, and3) to present his/her own action plan for a fairer and more sustainable society.										
Intercultural Education	This course examines various theories and practices of intercultural/multicultural education, with a focus on the concepts like bilingualism, heterogeneity, citizenship, social cohesion and so on.	この授業は，全学共通科目の"Learning+1"が目標とする「英語運用力や異文化社会およびグローバルな共生社会への知識を深め，国際的なフィールドでの実践力を身につける」と関連します。	This course aims at making students understand educational challenge in multicultural society.										
地域社会総論	「地域」あるいは「地域社会」とは，単に行政的な区画について示したものではなく，多様な関係性によって個人や集団が結びついている空間であるということができる。そこで本時では「地域」「地域社会」とはどのようなものか，各教員の専門から見た地域の姿について学び，地域についての基礎的・多角的な知識を養う。	学科のディプロマポリシー「地域社会の現状と成り立ちを幅広い視点から理解することができる能力を身に付ける」に対応する。	「地域」に関する基礎的・多角的な知識を学修するとともに，「地域」を読み解くための多様な視点を獲得する。					1				
まちづくり論	まちづくり論では，身近なまちづくりに参加して活動していくための知識を歴史的背景や制度的背景を知り，社会問題・社会構造の変容とまちづくりの関係について理解を深め，まちづくりとは何かを捉える力を養う。まず，公害問題や計画策定における市民参加・参画といった従来の運動論的な「まちづくり」を踏まえつつ，昨今の協働のまちづくりの現状を知る。さらに協働のまちづくりを進める上で重要となる制度・政策としての「地域ガバナンス」の視点を重視し，地域的まとまりに着目したコミュニティの持続的な仕組づくりを学ぶ。持続的な仕組みづくりを担う，コミュニティ組織，コミュニティ組織が対象とする問題領域，またそれらを支える制度について，日欧米の相違を整理しつつ，理解を深める。	・コミュニティデザイン学科の学習・教育目標「地域社会の現状と成り立ちを幅広い視点から理解することができる能力を身に付ける」に対応する。・建築都市デザイン学科の学習・教育目標「人間および社会の要求・条件を理解し，建築・地域・環境・制度を構築する能力を身につける。」に対応する。・社会基盤デザイン学科の学習・教育目標「社会基盤整備による問題解決のための適切な施策を提案することができる。」に対応する。	日本の住民主体のまちづくりについて，参加と協働のまちづくりがどのように発展してきたのか，制度的位置づけや歴史的変遷などについて基本的なことを理解した上で，社会問題・社会構造の変容とまちづくりとの関係を捉える力を養うことを目標とする。					0.5		0.5			
ソーシャルスキル演習	まちづくりの現場などの現実社会で行われている，人と人との関わりや，そこでの主体形成と合意形成などについて，それらを効果的に行うための能力を獲得することを目的とする。授業は，大学生が世代や価値観の異なる相手と円滑に関係を結び，社会・地域課題の解決に向けて集団として効果的に協働するためのソーシャルスキルを集中的に養成するとともに，ワークショップをデザインする際に必要となる多様なアクターの視点を持つこと，そして主体形成と合意形成とは何かを体験的に学ぶ。ロールプレイでは，宇都宮市の社会・地域課題を取り上げ，課題解決を協働で行うことを想定し，地域住民，行政，企業などの役割を演じるなど社会実相に即した模擬体験的な学習を行う。	コミュニティデザイン学科専門科目基礎科目群の科目として，「地域で主体的・協働的に行動し，活力あるコミュニティの形成に貢献できる能力」を身に付ける。	まちづくりの現場などの現実社会で行われている，人と人との関わりや，そこでの主体形成と合意形成などについて，それらを効果的に行うための能力を獲得することを目的とする。										1
社会調査と地域	地域社会を構成する人々の考え方や行動を把握するためには，地域に関するデータや資料を収集し可視化した上で，それらを分析することが必要となる。本時では社会調査に関する基礎的な事項について学ぶ。具体的には社会調査の歴史的な経緯，目的，方法論，量的調査と質的調査，その他統計とはどのようなものか，などについての学習を深めていく。なお，本時は社会調査士資格のA科目に相当する。	コミュニティデザイン学科専門科目基礎科目群の科目として，「地域社会の課題を発見するとともに，分析することができる能力」を身に付ける。	地域社会を構成する人々の考え方や行動を把握するためには，地域に関するデータや資料を収集し可視化した上で，それらを分析するための基礎知識を身に付ける。						1			

授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目との関連 ディプロマポリシーの項目記号 達成目標（ディプロマポリシー）の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2,・・・,0.9, 1.0の数値で表す								
				A	B	C	D	E	F	G	H	I
社会調査法	本時では社会調査の企画・設計，資料・データ収集，収集されたデータの整理について具体的な方法について理解することを目的とする。具体的には調査目的と方法，調査方法の決定，調査企画と設計，仮説の構成，全数・標本調査，質問文・調査票の作成，配布・回収やインタビューなど調査の実施方法，フィールドノート作成やエディティングなど調査データの整理等について解説を加える。なお，本時は社会調査士資格のB科目に相当する。	共通専門科目として，地域デザインに関する共通的リテラシー および地域社会の課題を発見するとともに，分析することができる能力を身に付ける	世の中でよく見られる社会調査の結果を，批判的に理解できるようになる。自分の目的に沿った，社会調査の質問紙調査票を作成することができる。		0.5				0.5			
公共政策入門	公共政策にはどのような形式があり，どのような分野に及び，どのように作られ，どのような過程で決定され，決定には誰が関わるのだろうか。また，決定内容は市民や企業にどのような影響をもたらすのかだろうか。 この授業では，学生にとって，比較的身近な様々な題材を毎回提供し，学生の題材に関する議論やその後の解説を通じて，法律，予算といった公共政策の形式，中央省庁や自治体における政策の担当部局，決定過程での政治家・官僚・利益団体・市民の関係や，国と地方の関係，さらに，規制などによる企業への影響について学ぶ。加えて，行政や政治と政策との関係，政策による経済への影響，政策と財政の関係についても説明し，学生が今後4年間学修する各科目のつながりを理解することも目指す。	学習・教育目標については，コミュニティデザイン学科専門科目の社会システム科目群の科目として，「地域の社会の現状と成り立ちを幅広い視点から理解することができる能力を身に付ける」に関連する。	学生にとって身近なテーマを通じて，公共政策の特徴，決定過程，市民や利益団体などとのかかわりについて学ぶ。さらに，公共政策と経済，政治，行政と関係を学ぶ。さらに様々な政策への賛否を学生が授業で議論することを通じて，社会の仕組みに対する意見を持ち，客観な視点を身につけることを目指す。								1	
経済学概論	家計の選好，効用最大化，利潤最大化，需要，供給，完全競争市場などのミクロ経済学，及びGDP等の経済統計や景気変動の理論などのマクロ経済学，それぞれの分野での基礎的知識と分析手法を学ぶ。	学科専門科目社会システム科目群の科目として，主に地域社会の現状と成り立ちを幅広い視点から理解することができる能力を身につける。	経済学の視座と経済学的分析力を獲得することにより，多面的な社会認識の能力を身につける。					1				
行政学	現代行政学の基礎的な考え方と体系的な知識について，日本における事例を紹介しつつ，制度論，管理論，政策論を分かりやすく説明する。現在進行形で生じている行政課題・公共政策・政治的課題についても取り上げて毎回の授業で紹介する。とくに公共サービスの提供主体の変容に注目する。	知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を，分野横断的に理解し，関連する基本的な知識を身につけ，それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する，地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。コミュニティデザイン学科専門科目社会システム科目群の科目として，「地域社会の現状と成り立ちを幅広い視点から理解することができる能力」を身に付ける	行政の概念から始めて，現代行政学が成立するに至った現代国家の特質，政治と行政との関係，行政サービスの範囲，政府間関係論，行政官僚制，行政管理，行政計画，行政能率，行政裁量といった行政学の基礎概念を理解し，具体的事例と紹介することで，現代政府の諸活動についての興味関心を持たせる。					1				
公共経済学	地域づくりに関する制度や地域に関わる取組の効果，価値の捉え方を理解するために必要な経済学の知識・考え方を学ぶ．社会資本や関連施策の役割・効果を社会経済的観点から理解・分析するための基礎理論と応用事例を学ぶ。	コミュニティデザイン学科の学科専門科目社会システム科目群の科目として，主に「新たなまちづくりに向けて制度を設計し政策を提案することができる能力」を身につける。	公共経済学の基礎理論のうち，地域づくりや社会基盤整備に関連の深い項目を中心に理解することを目標とする。								1	
地域資源論	グローバル化の進展や超高齢社会の進展といった地域社会の変容を受けて，地域資源活用に対する期待が高まっている。地域資源には，自然，文化，施設，人材，コミュニティなど様々な種類が認められ，これらは，地域内の複数の資源と相互に密接に関係しながら存在している。地域資源は，地域的な存在であるとともに，どこでも移転して提供することができない非市場性を兼ね備えている。本講義では，持続可能な社会の形成や，豊かさを求める現代社会の期待に応じ，地域資源をどのように見いだし，また活用すべきか，事例を示しながら解説する。	コミュニティデザイン学科のディプロマポリシーのうち，以下に関連する。・地域社会の現状と成り立ちを幅広い視点から理解することができる能力を身に付ける・地域の資源を新たなまちづくりに活用することができる能力を身に付ける	現代社会における地域資源への期待を理解するとともに，地域資源活用のあり方について展望することができる能力を育成するため，以下の点を到達目標とする。1．地域資源の概念を説明できること2．地域資源の種類や再発見の方法を説明できること3．現代社会における地域資源活用のあり方を説明できること							1		
地域食育論	食育基本法が制定されて以降，食育推進基本計画のもと，様々な食に関わる取組が展開されている。食育を効果的に推進するためには，地域の特性を生かした施策を立案するとともに，地域を担う関係者間の緊密な連携協力が求められる。また，食育は，他の施策の手段として用いることにより，潜在的な地域力を引出す可能性を有するほか，地域課題解決の糸口にもなりうる。授業では，食に関わる現状と課題を探り，食育の背景について理解を深めるとともに，地域や学校等で展開されている取り組みやライフステージに応じた食育のあり方を整理する。また，どのような食育が効果的か評価と検証を行い，地域の食の課題に留まらず，種々の課題に対応可能な食育活動を構想する。	学科専門科目地域資源科目群の科目として，地域の資源を新たなまちづくりに活用することができる能力を養成するほか，目標に掲げた資質向上に対応している。	○食に関わる現状と課題，食育の歴史的背景について基本的な事項を説明できる。○国や地方の食育推進に関わる目標値と達成度について地域性を含めて評価できる。○地域の課題解決に向けた食育活動を構想できる。							1		
農村マネジメント	農村社会における組織的特徴や経済循環の仕組みの特徴を理解し，歴史的にどのように変容してどのような課題が生じているかを学び，自分たちで調べたことを基に課題の解決策について議論を深める。そのために必要な質的調査の方法についても学ぶ。なお，本時は社会調査士資格のF科目に相当する。	学科専門科目地域資源科目群の科目として，主に新たなまちづくりに向けて制度を設計し政策を提案することができる能力を身につける。	農村社会を理解するための基本的な知識を身につけ，調査方法について学んだ上で，そこに生じている問題を調査可能な課題として定義できるように考える力を身につける。								1	
観光概論	本授業では，観光を学習・研究する際に必要となる基礎的な知識を習得することを目的とする。観光は複雑かつ多様な行動であり，これらを取り扱う産業や観光資源も多岐にわたる。そこで，本授業では，多様な視点から観光の概念や歴史，観光に関する制度や政策，さまざまな観光関連産業の特徴などを多面的に捉え，「観光」の全体像を把握する。	本授業は学部専門科目地域資源科目群の基礎的な科目であり，主に地域の資源を新たなまちづくりに活用することができる能力を身につける。	本授業の到達目標は，学生自らが観光やその関連産業の将来展望を理解する能力を備えることである。							1		

授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目との関連 ディプロマポリシーの項目記号 達成目標（ディプロマポリシー）の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2,・・・,0.9, 1.0の数値で表す								
				A	B	C	D	E	F	G	H	I
文化マネジメント	・文化は，人間性を涵養し創造性を育む。よって，人々に心豊かな生活を実現してゆく上で不可欠なものである。・なかでも，地域文化の振興には，居住する地域にかかわらず，様様な文化を等しく鑑賞できる機会を拡充する必要がある。・地域文化が持つ豊かさが，日本文化の基盤を成しており，地域文化の振興こそが，日本の魅力を一層高めて行くことにつながるのである。・授業では，「日本特有の様様な文化をいかに国内外に向けて発信するか」をテーマに，【より多くの知識を個個の独創的な知恵へと結びつける力】を養う。	・本時のテーマは，「文化とは何か」といった基本的な問いからはじまる。・専修する各分野の専門的な考察を展開する前に，美・藝術・感性・情動についてを哲学として学ぶ。・なお，この授業は，学科専門科目地域資源科目群の科目として，達成目標は，新たなまちづくりに向けて制度を設計し政策を提案することができる能力，地域社会の現状と成り立ちを幅広い視点から理解することができる能力に強く関係する。	・わが国の宝といえる多様で豊かな地域文化を活用することが文化マネジメントの使命である。・地域の「遺産」を心の「資産」とすることが肝要であり，さらなる創造を目標とせねばならない。・本事の到達目標は，各人の「感性」をより深めてゆくことであり，この半期間はその手がかりに過ぎない。					0.5			0.5	
高齢社会学	本講義では現代社会における最も重要なテーマである，高齢社会の問題について福祉社会学の視点から学ぶ。まず，高齢社会の到来の背景を取り上げ，それらが問題化される理由を，戦後日本の歴史の中に位置づける。その上で，「老い衰えゆくこと」そして「呆けゆくこと」がどのような経験であるのか，当事者の立場に降り立った形で理解する。以上の理解の上で，高齢者福祉政策の歴史的な変化および，現代日本の高齢者福祉を支える介護保険制度について，理解を深める。さらに，高齢化する日本社会の中で，地域の民間レベルで始まり，介護システム全体に大きな影響を与えた，小規模ケアの展開，新しい認知症ケアのあり方を学びながら，それらの今後の可能性を探る。最後に，高齢者介護における新しい家族介護の形態として注目される遠距離介護について考察を行う。	本授業は，コミュニティデザイン学科専門科目に含まれ，「新たな地域社会の担い手として率先して行動することができる能力」の養成というに必要な，高齢社会学の視点の涵養という点で，学習・教育目標と関連している。	現代社会における高齢社会の問題を理解し，それらを解決するための方向性を，学生自身が見出せるようになることを目標とする。						1			
地域福祉の実際	地域生活において，様々な人たちとのつながりの中で，歳をとっても，障害があっても，自分らしい生き方を全うできることが，その人の尊厳を支えることであり，地域福祉の目指すところである。それは，専門職だけでは，実現できないことである。そこで本講義では，住民自らが地域課題に気づき，その解決・改善に向け取り組む様子に，専門職が働きかけた実践事例を用いて地域福祉の考え方や方法について学ぶ。	コミュニティデザイン学科の学科専門科目地域実践科目群の科目として，主に「地域社会の現状と成り立ちを幅広い視点から理解することができる能力」を身につける。	この学びから，学生自身が地域課題解決のために必要な視点を見いだすことを目標とする。					1				
生涯学習社会論	現代は急速な社会変容が起こっているということができる。そのため社会ないしは地域を作り上げていくためには，学校での学習だけではなく，社会教育・生涯学習の視点を持つことにより，自ら考えたり他者からの意見を踏まえた合意の形成などが重要となっている。そこで，社会教育・生涯学習の理念・歴史を踏まえ，具体的な事例を提示しながら現代社会における社会教育・生涯学習の現状と課題について考察し，現代社会に必要とされている力量の形成を目指す。	学科ディプロマポリシー「地域社会の現状と成り立ちを幅広い視点から理解することができる能力を身に付ける」に相当する。なお，本時は社会教育主事資格取得のために必要な科目である。	生涯学習・社会教育の概念について理解を図るとともに，現代の生涯学習社会をとらえ直すことができるようになることが目標である。具体的には以下が目標となる。・社会教育・生涯学習の違いを明確に説明できる・小集団学習，共同学習を体験的理解し，小集団で話し合うことができる。・社会的事象から，学習要素を抽出し何が社会教育なのかを具体的に説明できる。					1				
地域社会学	日本社会は，現在大きな転換期を迎えています。高齢化・少子化・混住化の進行によって，地域の構成メンバーが激変する中，生活問題の内容も多様化・複雑化してきました。一方，防災や環境問題への取り組みの高まりとともに，地域社会の果たす役割が再認識されています。本講義では，都市及び農村における地域社会の意義を理解するとともに，今後の地域社会が十全に機能するための条件などを考えます。	コミュニティデザイン学科専門科目地域実践領域科目群の科目として，地域で主体的・協働的に行動し，活力あるコミュニティの形成に貢献できる能力を身に付ける。	地域社会は，職場や学校と本質的に異なる役割と仕組みを持っていることを理解するとともに，変貌する社会構造のなかで，今後，安心で住みやすい地域社会を作り上げるための基本的考え方を習得する。										1
地域実践心理学	地域実践心理学は，地域の中で，地域に生きる私たちが心理学の知識を実践的に活かす，すなわち「地域社会という視点から対人援助や地域の活性化を行う」（中田・串崎，2005）ことを目的としている。本授業では，受胎から死に至るまでの人間の発達の諸相について「生涯発達心理学」の知見を学び，また，そのプロセスを取り巻く種々の課題や心身の問題の理解と援助について「臨床心理学」から学ぶ。また，学んだ知識を地域でどのように実践することができるかについて検討する。	学科専門科目地域実践科目群の科目として，主に地域で主体的・協働的に行動し，活力あるコミュニティの形成に貢献できる能力を身につける。	地域に生きる人々がどのように成長し，どのような課題を抱えるのか，その成長や課題に対し，どのように支え合うことができるか，についての学びを基に，それらを自分自身の問題として捉え，より地域に根差した実践のあり方を提案できるようになることを目標とする。										1
まちづくり特講	地方都市やその周縁部地域における社会構造や人口・世帯構造の変化を整理しつつ，地域問題の傾向を把握する。そして，典型的な地域問題に対するまちづくりの実践例を学び，問題解決に向けて，まちづくりの今後の方向性を議論し，受講生自らがまちづくりリーダーとなることを想定したまちづくりプランを作成する。講義では複数の教員によるオムニバス授業とワークショップを行う。	コミュニティデザイン学科専門科目基礎科目群の科目として，「地域で主体的・協働的に行動し，活力あるコミュニティの形成に貢献できる能力」を身に付ける。	地方都市やその周縁部地域における社会構造や人口・世帯構造の変化を整理しつつ，地域問題の傾向を把握する。そして，典型的な地域問題に対するまちづくりの実践例を学び，問題解決に向けて，まちづくりの今後の方向性を議論し，受講生自らがまちづくりリーダーとなることを想定したまちづくりプランを作成する。										1
統計学基礎	本科目では統計資料の読み取り方やまとめ方，相関の考え方と数学的取扱を学修する。統計学の基礎を理解し，基礎的な資料とデータの分析法を身に付ける。各種統計資料を収集し，その内容を解釈し，また独自の資料を作成できるようになる。平均，分散，標準偏差等の主要な記述統計量の意味を理解し，計算できるようにする。相関関係について，クロス集計や相関係数を用いて評価でき，その意味を解釈できるようになる。確率論の基礎，確率分布，推定について理解できるようになる。この科目は，社会調査士資格C科目に該当する。	コミュニティデザイン学科専門科目基礎科目群の科目として，「地域社会の課題を発見するとともに，分析することができる能力」を身に付ける。	統計資料の読み取り方やまとめ方，相関の考え方と数学的取扱を学修する。統計学の基礎を理解し，基礎的な資料とデータの分析法を身に付ける。確率論の基礎，確率分布，推定について理解できるようになる。						1			
社会統計学	推測統計の考え方，集計，分析手法を学修する。併せて，多変量解析についても学修する。仮説検定の方法を身に付ける。単回帰分析を使えるようになるとともに，最小二乗法について理解する。多変量解析手法のうち，主として量的データを解析するときに用いる重回帰分析，質的データを被説明変数とする解析に用いるロジスティック回帰分析，多様な変数の関連を整理するための基本的な手法である因子分析・主成分分析を使えるようになる。多変量解析の適用時に留意すべき事項を学ぶ。この科目は社会調査士資格D科目に該当する	コミュニティデザイン学科専門科目基礎科目群の科目として，「地域社会の課題を発見するとともに，分析することができる能力」を身に付ける。	推測統計の考え方，集計，分析手法を学修する。併せて，多変量解析についても学修する。						1			

授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目との関連 ディプロマポリシーの項目記号 達成目標（ディプロマポリシー）の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2,・・・,0.9, 1.0の数値で表す								
				A	B	C	D	E	F	G	H	I
社会調査 実習Ⅰ	本授業及び，社会調査実習Ⅱを合わせて，社会調査の企画から報告書の発行までの調査の全過程をひと通り実習する。すなわち，これまでに習得した社会調査に関する知識の集大成となる。社会調査実習Ⅰでは，本実習が対象とするテーマに関して，まず，政府統計や既往論文など既存資料をもとに理解を深める。そして，問題設定，あるいは仮説の組み立てなどの検討をもとに，調査方法の検討と調査計画づくりを行う。作成した調査計画については，既往研究などと比較検討しどのような特徴を持つ調査になるのか整理する。必要に応じて予備調査を実施する。なお，社会調査実習Ⅰと同Ⅱを合わせて履修することで，社会調査士資格のG科目となる。社会調査士資格のA～D及び，EないしはF科目を履修していない学生は本授業を履修することができない。また，社会調査実習Ⅱを履修するものは本社会調査実習Ⅰを履修しなければならない。	コミュニティデザイン学科専門科目基礎科目群の科目として，「地域社会の課題を発見するとともに，分析することができる能力」を身に付ける。	本授業及び，社会調査実習Ⅱを合わせて，社会調査の企画から報告書の発行までの調査の全過程をひと通り実習する。						1			
社会調査 実習Ⅱ	社会調査実習Ⅰ及び，本授業を合わせて，社会調査の企画から報告書の発行までの調査の全過程をひと通り実習する。社会調査実習Ⅱでは，実習Ⅰで決定，検討したテーマをもとにグループをつくる。その上で調査・分析方法の精緻化を行い，決定した調査方法に応じて，量的な調査であれば，調査票作成に関する議論（質問対象者と質問項目の設定・選択肢の作成・レイアウトなど）を行い，質的な調査であれば，インタビュー，参与観察，ビデオ撮影などの準備を行う。そして，実際に調査を実施し，得られた調査データの精緻化，分析，考察といった一連の作業を行い，報告書の作成を行う。なお，社会調査実習Ⅰと同Ⅱを合わせて履修することで，社会調査士資格のG科目となる。社会調査士資格のA～D及びEないしはF科目を履修していない学生は本授業を履修することができない。また，社会調査実習Ⅱを履修するものは本社会調査実習Ⅰを履修しなければならない。	コミュニティデザイン学科専門科目基礎科目群の科目として，「地域社会の課題を発見するとともに，分析することができる能力」を身に付ける。	社会調査実習Ⅰ及び，本授業を合わせて，社会調査の企画から報告書の発行までの調査の全過程をひと通り実習する。						1			
政治学概論	日本を含め先進国では高齢化が進み，政府の財政赤字は，年々増加し，国民への負担増が避けられない状況になってきている。多くの国では，民主主義に基づいて政治，経済などに関わる決定がなされている。民主主義の理念はどのようなものであり，民主主義を支える制度はどのようなものだろうか。国民の代表を選出する制度はどのようになっているのだろうか。誰が，どこで，どのような過程で予算や法律を決定しているのだろうか。講義では，選挙制度，政党，大統領制・議院内閣制，議会制度等の制度について日本を中心とした事例を取り上げながら説明する。	学習・教育目標については，コミュニティデザイン学科専門科目の社会システム科目群の科目として，「地域の社会の現状と成り立ちを幅広い視点から理解することができる能力を身に付ける」と関連する。	政治理論を通じて，日本を中心とする政治の制度や政治家・官僚・利益団体・有権者の関わりを理解するとともに，政治における問題点を見出す力を身につけることを目指す。					1				
ミクロ経 済学	ミクロ経済学の基本概念である，市場，消費者行動，企業行動についての理解を深める。	コミュニティデザイン学科専門科目社会システム領域科目群の科目として，地域社会の現状と成り立ちを幅広い視点から理解することができる能力を身に付ける。	ミクロ経済学の基礎を修得し，経済学の考え方，センスを身につける。					1				
マクロ経 済学	現実の経済問題にも触れながら，マクロ経済学の初歩的な経済分析の手法を提示し，経済学の視座と経済学的分析について解説する。	学科専門科目社会システム科目群の科目として，主に地域社会の現状と成り立ちを幅広い視点から理解することができる能力を身につける。	経済学の視座と経済学的分析力を獲得することにより，多面的な社会認識の能力を身につける。					1				
法学概論	本講義では，法学を学ぶ基礎を修得したうえで，わが国の司法制度をその担い手や手続の観点から概観する。また，憲法学，民法学および刑法学について，基本的な考え方を学ぶとともに，各法分野における論点をひとつずつ取り上げ，さまざまな角度から検討する。さらに，最高裁判例などの事例も可能な限り紹介し，考察を加える。	コミュニティデザイン学科専門科目社会システム領域科目群の科目として，地域社会の現状と成り立ちを幅広い視点から理解することができる能力を身に付ける。	・わが国の司法制度の枠組みを理解し，これからの司法制度のあり方を考えるための基礎的な知識を身につけること・法学を学んでいくうえで必要な能力（六法全書の使い方や条文・判例の読み方等）を身につけること・論理的に思考し，法を根拠として自分の意見を表明できるようになること					1				
憲法	憲法における人権および統治機構の両分野を取り上げる。	憲法の主たる役割である人権保障のメカニズムと，それを支える統治機構の原理を習得する。憲法学を通して，国境を越えた社会の諸問題を，分野横断的に理解し，関連する基本的な知識を身につけると同時に，異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し，実証的かつ合理的に考察することができるようになることをめざす。コミュニティデザイン学科専門科目社会システム領域科目群の科目として，地域社会の現状と成り立ちを幅広い視点から理解することができる能力を身に付ける。	社会で生起する様々な問題を法的論理に基づいて考えることができるようになることを目指す。あわせて，毎講義後にリアクションペーパーを書き，次の講義でフィードバックすることにより，論理的な文章の作成能力養成をも企図している。					1				
民法	民法は日常生活に直結する，非常に身近な法律である。民法の基礎知識を学びながら，日常生活とどのように関わるのか，これらの知識を用いて日々の生活において直面する問題にどのように対応したらいいのか，を考える。	(A)知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を，分野横断的に理解し，関連する基本的な知識を身につけ，それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する，地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。(B)思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し，実証的かつ合理的に考察することができる。コミュニティデザイン学科専門科目社会システム領域科目群の科目として，地域社会の現状と成り立ちを幅広い視点から理解することができる能力を身に付ける。	民法の基本原理や基礎知識の習得を主な目的とするが，単に条文の内容や知識を学ぶだけでなく，民法の学習を通じて法的なものの考え方も習得する。					1				

授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目との関連 ディプロマポリシーの項目記号 達成目標（ディプロマポリシー）の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2,・・・,0.9, 1.0の数値で表す								
				A	B	C	D	E	F	G	H	I
経済政策論	財政政策・金融政策などの経済政策が，景気や雇用・物価などの経済に与える影響を，マクロ経済学の理論的裏付けを理解した上で学ぶ。	コミュニティデザイン学科専門科目社会システム科目群の科目として，「地域社会の現状と成り立ちを幅広い視点から理解することができる能力」を身に付ける	現実の経済政策，とくに財政政策および金融政策の運営についての理解力と判断力を身につけること。					1				
地方自治論	身近な地域社会の諸課題を取り上げ，かつ担当教員のこれまでの地方自治をめぐる実践活動を紹介しつつ，住民，企業，行政，NPOといった諸アクター間の連携・協働のあり方を探る。とくに授業の前半では教員自らが作成した地方自治関連の報告書や論文等を用いる。	知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を，分野横断的に理解し，関連する基本的な知識を身につけ，それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する，地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。学科専門科目社会システム科目群の科目として，新たなまちづくりに向けて制度を設計し政策を提案することができる能力，及び地域社会の現状と成り立ちを幅広い視点から理解することができる能力を身につける。	地方分権や市町村合併をめぐる論議，予算や財源・権限の行使，さらに意思決定過程等について考察する。受講生自身が地方自治に関するテーマを設定し，そのテーマに関するレポートの作成に取り組む。					0.5			0.5	
政策過程論	公共政策を立案し，決定し，実施する過程で利害関係者はどのように関わり，現行政策の変更が困難であるならその理由はどこにあるのだろうか。この授業では，政治家あるいは市民・企業が政策実現をする場合や自治体が新規政策の採用をする場合に必要な要素，直面する壁を理解するために，政策過程の理論や制度論の視点を学ぶ。政策過程における政治家・官僚・利益団体や市民，中央・地方関係については，公共政策入門や政治学概論で一度学んでいる。復習を行いつつ，政策決定，政策実施，政策転換や政策・制度の粘着性といった政策過程に関するモデルや理論，リーダーシップや市民参加の視点を説明し，それらの理論への学生のより深い理解を目指す。加えて，日本，米国の実際の改革の成功事例，失敗事例を取り上げ，何が影響したのかについて議論しながら，政策過程の実態を理解する。最終的には，政策に関する研究報告を行い，公共政策に関する分析力の定着を図る。	学科専門科目社会システム科目群の科目として，主に新たなまちづくりに向けて制度の設計や政策の提案をすることができる能力を身につける。	政策過程に関する理論やモデルによる視点を用いて，現実の政策過程での様々なアクターの関わりについて理解するとともに，日本を中心とした国・自治体の政策課題を見出し，改善策を提案する力の基礎を身につける。								1	
行政法	本授業においては，行政法に関する基礎知識を学習する。いわゆる「行政法総論」のうち，行政法に関する基本原則，重要法律の概要，行政活動の仕組み，行政過程論等を学ぶ。また，行政救済法に関しても，基本的な仕組み（制度の概要等）を学ぶ。地域創生に関しても，行政主体，特に地方自治体による積極的な政策実現が不可欠となるが，政策実現のための手段や関連する法的問題について十分な知識がなければ掛け声倒れに終わるおそれがある。そのため，本授業では，他の地方自治体における先進的な取り組みも紹介しながら，生きた行政法の知識を得られるようにする。	コミュニティデザイン学科専門科目社会システム科目群の科目として，「地域社会の現状と成り立ちを幅広い視点から理解することができる能力」を身に付ける	行政法に関する基礎知識を学習する。					1				
公共マネジメント	人口減少社会において，地域の課題に取り組むためのマネジメント手法について学習する。この科目では，以下のマネジメント手法を取り上げ，背景・目的，制度，事例，効果の捉え方や経済評価の方法，課題等について学習する。・アセットマネジメント，ライフサイクルマネジメントなどのインフラ維持管理のマネジメント手法・総合評価落札方式，最低制限価格制度，PFI，指定管理者制度などの，入札・契約のマネジメント手法・公会計，財政健全化，政策・事業評価などの，自治体財務のマネジメント手法・NPO，CSR，市民協働などの，官民協働のマネジメント手法に関して，制度，事例，効果の捉え方などについて学習する。	コミュニティデザイン学科専門科目社会システム科目群の科目として，「新たなまちづくりに向けて制度を設計し政策を提案することができる能力」を身に付ける	人口減少社会において，地域の課題に取り組むためのマネジメント手法について学習する。								1	
スポーツ・余暇政策	スポーツ，レジャーや趣味，くつろぎ空間といったスポーツ・余暇領域を対象に，政策を公共サービスの多様な担い手が生み出す活動や方針と広く捉え，興味深い素材を新聞報道から紹介しつつ，受講生自らが関心のあるテーマを設定し考察を行う上での助言・指導を行う。グループ討議を積極的に行う。	関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら，自己の文化との相違を尊重して，社会の諸問題を解決するために，大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。コミュニティデザイン学科専門科目社会システム科目群の科目として，「新たなまちづくりに向けて制度を設計し政策を提案することができる能力」を身に付ける	日本における不況の長期化や企業業績の悪化に伴うリストラの激化，地方税収入の減少や負債の増大に伴う公共サービスの低下といった国民負担の増大は，人々の生活基盤そのものを直撃しつつある。一方で，人々は特定のレジャー領域においては支出を惜しまない傾向も続いている。こうしたスポーツ・余暇環境をどう捉えるかを考察していく。								1	
都市計画法	本講義では，都市計画法及び関連する法令に関する基礎的な理解をはかるとともに，都市計画とコミュニティ形成との関係で現実的な問題となっている諸事例を取り上げて検討することで，都市計画において，いかに法と政策を融合的に理解し，活用するかという視点を修得する道筋を示す。憲法，民法及び行政法といった基本科目を習得していることが望ましいが，導入部分で最低限度の知識の伝授は行う。	学科専門科目社会システム科目群の科目として，地域社会の現状と成り立ちを幅広い視点から理解することができる能力を身につける。	都市計画法及び関連する法令に関する基礎を学ぶ。都市計画において，いかに法と政策を融合的に理解し，活用するかという視点を修得する。					1				
プロジェクト評価論	まちづくり，地域づくりのプロジェクト（公共事業やイベントなど）を経済評価する手法を学習する。費用便益分析を中心に，便益の計測手法や，実務的に活用されている事業評価マニュアルの内容，理論的・実務的背景，課題などを学習する。プロジェクトの経済評価の際には，効果・便益の計測手法が難しいとされており，この科目では，便益計測手法として，CVM，TCM，ヘドニックアプローチ，コンジョイント分析を取り上げ，その理論，手順，適用・研究事例，課題について学習する。	コミュニティデザイン学科専門科目社会システム科目群の科目として，「地域社会の課題を発見するとともに，分析することができる能力」を身に付ける。	まちづくり，地域づくりのプロジェクト（公共事業やイベントなど）を経済評価する手法を学習する。						1			

授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目との関連 ディプロマポリシーの項目記号 達成目標（ディプロマポリシー）の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2,・・・,0.9, 1.0の数値で表す								
				A	B	C	D	E	F	G	H	I
財政学	財政が果たすべき役割，および，それを成し遂げるための財政制度を理解し，増減税や公債発行による経済効果を考察するための基礎的な知識を学習する。併せて，歳出に関する経済理論や財政制度を理解し，歳出の規模や構成が変化することによる経済効果を考察するための基礎的な知識を学習する。また，制度面でも財源面でも国家財政と不可分の関係にある地方財政について，地方財政と国家財政間の機能分担および財政移転のあり方を考察し，併せて，地域の日常生活に不可欠な行政サービスを担う地方財政のあり方について地域の暮らしや活力の観点から学習する。	コミュニティデザイン学科専門科目社会システム科目群の科目として，「地域社会の現状と成り立ちを幅広い視点から理解することができる能力」を身に付ける	財政が果たすべき役割，および，それを成し遂げるための財政制度を理解し，増減税や公債発行による経済効果を考察するための基礎的な知識を学習する。併せて，歳出に関する経済理論や財政制度を理解し，歳出の規模や構成が変化することによる経済効果を考察するための基礎的な知識を学習する。					1				
環境・資源経済学	経済学（主にミクロ経済学）の理論をベースに，環境・資源問題がなぜ起こっているのか，どのような方法で解決することが可能であるかを理解する。	コミュニティデザイン学科専門科目社会システム領域科目群の科目として，新たなまちづくりに向けて制度を設計し政策を提案することができる能力を身に付ける。	環境税や排出権取引制度など環境政策手段の基本的な考え方を理解するとともに，現状の環境・資源問題と経済との関係を知る。								1	
地域生態学	地域生態学は，人間と地域のかかわりを生態学的視点から総合的にとらえることで，人間と地域の関係を持続可能にする手法を研究する学問領域である。授業では，生態学的地域区分の理論と手法をもとに，都市や農村，河川，里山等のランドスケープを分析するとともに，地域生態学的手法によって地域の環境を保全・再生する方法について事例をあげながら解説する。	コミュニティデザイン学科のディプロマポリシーのうち，以下に関連する。・地域の資源を新たなまちづくりに活用することができる能力を身に付ける	地域生態学の視点から地域の成り立ちを理解し，地域環境の形成に活用できる専門的な知識とスキルを育成するため，以下の点を到達目標とする。1. ランドスケープ，生態系の概念を説明できること2. 生態学的地域区分の概念を用いて地域を説明できること3. 地域生態学的方法を理解し，基本的な事例を説明できること							1		
農村起業論	経営学の基本的な考えからを学び，それが農村での課題解決にどのように結びつくかを考える。さらに，土地を基盤としていることから生じる農業経営問題の特殊性を理解し，それでも企業的に発展している経営があることを学ぶ。これらを総合して，農村に特有のコミュニティービジネスのあり方を考える。	コミュニティデザイン学科専門科目地域資源科目群の科目として，「地域の資源を新たなまちづくりに活用することができる能力」を身に付ける	経営学の基本的な考えからを学び，それが農村での課題解決にどのように結びつくかを考える。							1		
食文化論	和食がユネスコ世界無形文化遺産に登録され，日本人の伝統的な食文化が広く認知され始めた。食文化は，時代や環境により影響を受けながら，長い歳月をかけて，その土地で育まれてきた生活様式に関わる文化の一つとされる。各地域で伝承されてきた食文化を守り継承していくためには，自らの食習慣を分析し，習慣化した背景要因を探ることも重要な過程である。授業では，日本の食文化形成の要因に対する理解を深め，他の文化同様に，自然環境や社会環境に大きく影響を受けることを学ぶとともに，和食の基本的な食事スタイル「一汁三菜」の原点である日本料理の系譜についても取り上げる。また，受講者に関わりのある地域の食文化について調査し，伝統的な食文化を継承するために必要な要因について整理し，共有する。	コミュニティデザイン学科専門科目地域資源科目群の科目として，「地域の資源を新たなまちづくりに活用することができる能力」を身に付ける	日本の食文化形成の要因に対する理解を深め，他の文化同様に，自然環境や社会環境に大きく影響を受けることを学ぶ。							1		
観光地理学	観光地理学では，主に日本について取り上げ，自然環境，歴史文化環境，社会経済環境などの複合的な視点から，さまざまな観光地域の形成と実態，魅力を理解することを目的とする。とくに，日本における観光の歴史，観光地域の広域的な分布パターン，さまざまな観光地域の形成過程とその実態，観光客の行動パターンなどに重点をおく。	コミュニティデザイン学科専門科目地域資源科目群の科目として，「地域の資源を新たなまちづくりに活用することができる能力」を身に付ける	本授業の到達目標は，複合的な視点からさまざまな観光地域の動向を正しく理解し，観光地域の将来展望や観光まちづくりのあり方を理解できる能力を身につけることである。							1		
食資源活用実習	地域には様々な資源が存在しているが，なかでも潜在的な食資源を発掘して，その活用を模索し付加価値を高めていくことは，地域が自立し発展していく上で鍵となるプロセスである。地域力を向上させるために，未利用の食材や既存の食材の栄養学的調理学的特徴を捉え，食資源の活用のあり方を実習を通して提案することは，地域社会への貢献にもつながる。授業では，食資源を活用する際に大切となる調理における基本的な知識と技術を修得するとともに，食物のおいしさに影響する要因について理解を深め，食資源の商品開発へとつなげる。また，各自が調査して抽出した食資源について，対象として設定した年代や地域に応じた活用のあり方を検討し提案する。	コミュニティデザイン学科専門科目地域資源科目群の科目として，「新たなまちづくりに向けて制度を設計し政策を提案することができる能力」を身に付ける	食資源を活用する際に大切となる調理における基本的な知識と技術を修得するとともに，食物のおいしさに影響する要因について理解を深め，食資源の商品開発へとつなげる。								1	
観光学実習	バブル経済崩壊後1990年代半ば以降，経済不況に伴う企業による社員旅行の縮小，観光政策の転換，インターネットの普及，余暇活動の多様化などのさまざまな要因により，日本人の観光形態に質的変化がみられている。こうした状況下，地域資源を活かした観光振興が全国で行われており，その地域を熟知した観光まちづくりの担い手の育成が不可欠となっている。そこで，本授業では，巡検形式のフィールドワークを行い，対象地域の産業，文化，観光地域の構造など把握することを目的とする。	コミュニティデザイン学科専門科目地域資源科目群の科目として，「新たなまちづくりに向けて制度を設計し政策を提案することができる能力」を身に付ける	本授業の到達目標は，対象地域の産業，文化，観光地域の構造などを正しく理解し，その将来展望やまちづくりのあり方について理解できる能力を身につけることである。								1	
地域史	本学の地元である宇都宮の歴史に関する史料を読み，そこから何が読み取れるのかを考えることで，史料から歴史を考える力を養い，地域の歴史に対する理解を深める。	地域の歴史を学ぶことで，中学・高校で学んできた歴史を地域の視点で見直し，歴史を主体的に考える力を身に付ける。コミュニティデザイン学科専門科目地域資源科目群の科目として，「地域の資源を新たなまちづくりに活用することができる能力」を身に付ける	日本史の史料の基礎的な読解力を修得する。また，史料を実際に読むことで，歴史社会のイメージを豊かにするとともに，地域の歴史への関心を深める。							1		

授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目との関連 ディプロマポリシーの項目記号 達成目標（ディプロマポリシー）の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2,・・・,0.9, 1.0の数値で表す								
				A	B	C	D	E	F	G	H	I
生物多様性論	環境破壊の中でも，回復が最も難しいのが生物多様性の破壊です。野生で生活する個体が失われると，その個体群を回復させるのは非常に困難で，絶滅すれば，その種は二度と戻りません。人間は生態系がもたらす様々なサービスに完全に依存していて，そのサービスの相当部分を生物多様性がもたらしています。本講義では，「生物多様性を失うと，こうしたサービスも失われるのか」という問いかけに応じた様々な研究事例と，それらから得られた知見を平易に紹介します。	「現代社会に必要なリテラシー（素養）」，幅広く深い教養と豊かな人間性を身につける教養教育を行う」という教育目標に対応します。コミュニティデザイン学科専門科目地域資源科目群の科目として，「地域の資源を新たなまちづくりに活用することができる能力を身に付ける」に対応します。社会基盤デザイン学科のディプロマポリシー「（H）社会基盤整備による問題解決のための適切な施策を提案することができる」に対応します。	生物多様性は私たちの暮らしにどのような財や恩恵を提供しているのか，また生物多様性はどのように維持されているのかについての知識を習得し，生物多様性保全の意義について理解することを目標としています。							1		
景観解析	景観とは私たち人間を取り巻く環境の眺めであり，同時に私たちと環境との関係を理解するための有効な指標である。本講義では，景観工学的な視点からまず景観とは何かについて学び，景観の物理的な解析方法を学習する。さらに環境生理・心理学的な視点から人間の反応・評価を通じた景観の解析手法について学習する。	コミュニティデザイン学科専門科目地域資源科目群の科目として，「地域社会の課題を発見するとともに，分析することができる能力」を身に付ける。	景観工学的な視点からまず景観とは何かについて学び，景観の物理的な解析方法を学習する。さらに環境生理・心理学的な視点から人間の反応・評価を通じた景観の解析手法について学習する。						1			
文化マネジメント演習	・授業では，「文化の持つ力と必要性を社会に対してどのように説明し，その機会を設けることができるか。」をテーマに，実際に文化事業をシミュレーション企画してみる。・また，その過程で【文化「モノ」と諸論「コト」を結びつける実践力】を養う。	・本時のテーマは，「マネジメントのチカラ」である。このことへの問いからはじまる。・これまでの理論が，実務においてどのように有効かをシミュレーション企画によって検証する。・コミュニティデザイン学科専門科目地域資源科目群の科目として，「新たなまちづくりに向けて制度を設計し政策を提案することができる能力」を身に付ける。	・わが国の宝といえる多様で豊かな地域文化を活用することが文化マネジメントの使命である。・地域の「遺産」を心の「資産」とすることが肝要であり，さらなる創造を目標とせねばならない。・本時の到達目標は，各人の「感性」をより深めてゆくことであり，この半期間はその手がかりに過ぎない。								1	
生涯学習概論	教育そのものを根底から問い返すという問題意識を常に背景に置きながら，「生涯学習」が，どのように理解され，どのようにして実践されるべきかについて，受講者自身が考えていけるように講義する。なお，本科目では，コミュニティデザイン学科専門科目地域実践領域科目群の科目として，地域社会の現状と成り立ちを幅広い視点から理解することができる能力を身に付けることをめざす。	講義を受けている時間だけが学習時間だと限定してしまうことなく，日常生活の中で普段から，「いつでも，どこでも，だれからでも，なにからでも，どのようにでも」自ら学び取っていく貪欲さを持つこと。	授業で重視している目標は，①生涯学習および社会教育についての基礎知識の習得，②生涯学習時代への主体的・能動的対応として「考える方法」を考えること，③生涯学習実践の中心的課題として「自分自身を学ぶ」ということの学習，の3点である。					1				
社会学概論	中学・高校で扱った社会科・地歴公民の内容を，社会学的な観点から見ることによって，社会学的な考え方を身につける。	コミュニティデザイン学科専門科目地域実践科目群の科目として，「地域社会の現状と成り立ちを幅広い視点から理解することができる能力」を身に付ける	さまざまな社会現象を，社会学的な観点から見ることができるようになる。					1				
地域福祉論	地域福祉の現状と課題を把握し，社会福祉援助技術としての地域援助の方法について学ぶ。	コミュニティデザイン学科専門科目地域実践領域科目群の科目として，地域社会の課題を発見するとともに，分析することができる能力を身に付ける。	自ら主体的に地域の課題を見つけ，解決の方法を検討できる知識と技術を身につける。						1			
社会教育計画Ⅱ	社会教育主事有資格者にふさわしい実力を着実に身につけるために，応用的・実践的な授業を進め，学生が自らを研鑽する中で，「生涯学習まちづくり」における有効な手法として社会教育計画を作成することの意義を学んでもらう。なお，本授業では，コミュニティデザイン学科専門科目地域実践領域科目群の科目として，新たなまちづくりに向けて制度を設計し政策を提案することができる能力を身に付けることをめざす。	社会教育計画Ⅱは，大学の社会教育主事養成コースにおける教育内容のうち，「地域社会と社会教育」「学習情報提供と学習相談」「社会教育と広報・広聴」「社会教育の評価」について深めることを目標としたものである。	実際に社会教育主事として働く場合には，どのような力量や心構えが必要かを自覚し，それを実行・実現できるようにする。また，社会人基礎能力の習得も視野に入れて，授業を進める。								1	
NPO論	NPO論では，NPOが出現する社会的・歴史的背景を踏まえつつ，サービスの領域を把握する。国内外を問わず，地域社会において身近な生活課題に取り組むNPOの事例を通して，組織的特徴と課題を把握する。特にNPOのリーダー層に着目し，活動を始めたきっかけや団体の運営マネジメントに着目して理解を深める。そしてこれらの活動・組織を支援する「インターミディアリ」や国内外の政策動向について整理し，今後のNPOの展開の方向性を議論する。	コミュニティデザイン学科専門科目地域実践科目群の科目として，「新たなまちづくりに向けて制度を設計し政策を提案することができる能力」を身に付ける	学生自らが社会的な事業に取り組むという切り口から，自らがNPO活動に関わることを想定し，どのような選択肢，方向性があるのかを見出すことを本授業の到達目標とする。								1	

授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目との関連 ディプロマポリシーの項目記号 達成目標（ディプロマポリシー）の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2,・・・,0.9, 1.0の数値で表す								
				A	B	C	D	E	F	G	H	I
会話分析入門	本講義では，少子化，人口減少などの困難な課題を抱える現代社会において，受講生自身が今後「どう生きるのか」，といった困難な課題に関して，大学で学ぶ学問はどのように答えることができるのか，社会学における「会話分析（Conversation Analysis）：以下CA」という研究の方法論，知見，精神／姿勢を学ぶことを通じて，その一例を受講生が追体験することを目標とする。前半はCAがその分析の基盤としている，自分自身，また自らを取り巻く「日常世界」におけるコミュニケーションの構造について，CAの研究の歴史や方法とともに学ぶ。その後，CAが応用的に取り組んでいった現代社会の重要な「制度的場面」（科学，経営，教育，医療，福祉，法律，NPO，ボランティアなど）についての分析の知見を，特に，受講生が今後経験するかもしれないライフコース上の課題（就職活動，留学，不妊治療，子育て，介護，看取りなど）や，地域活動（ボランティア，サイエンスカフェ，サービスエンカウンターなど）を念頭に置きながら，学ぶ。以上のような作業を通じて，受講生が社会に参与する当事者の一員として，現代社会の課題に実践的にどのように関わるべきか，その認識の基盤を，受講生一人一人が自らの手でがつかみ取っていく。	コミュニティデザイン学科専門科目地域実践科目群の科目として，「地域社会の課題を発見するとともに，分析することができる能力」を身に付ける。	本講義では，少子化，人口減少などの困難な課題を抱える現代社会において，受講生自身が今後「どう生きるのか」，といった困難な課題に関して，大学で学ぶ学問はどのように答えることができるのか，社会学における「会話分析（Conversation Analysis）：以下CA」という研究の方法論，知見，精神／姿勢を学ぶことを通じて，その一例を受講生が追体験することを目標とする						1				
多文化理解論	現代日本はますます多文化・多民族化が進展しているといえる。ここで問題となるのは相互の認識不足・理解不足による軋轢や人権侵害が挙げられる。そこで文化が異なる集団が一つの地域に存在している社会ではどのような認識が必要となるのかについて参加型学習を行いながら議論していく。また，本授業では主に多文化教育および先住民族をテーマとする。	本授業は教養教育の基礎となる学習・教育やコミュニケーションなどに関する内容となる。地域を構成する人々は一様ではなく，多様なアイデンティティを持っており，それに基づく文化もまた多様であるといえる。そのため，学科専門科目地域実践科目群として，新たなまちづくりに向けて制度を設計し政策を提案することができる能力，及び地域社会の現状と成り立ちを幅広い視点から理解することができる能力を身につけることに関連した内容である。	現代社会における多文化化・多民族化についての理解を深め，そこに存在する問題点に気づくことができるようになると同時に，事象に対する批判的視点を養う。				0.5			0.5	
福祉社会学	本講義では現代社会の福祉の重要な問題として，「障害者問題」「貧困問題」「児童虐待」「生命の選択」等を主要テーマとして設定して学ぶ。どのテーマにおいても，それらが問題になる背景としての歴史的・制度的・政策的な背景について説明を行った上で，そうした福祉の問題に直面している当事者の人たちの経験について，福祉社会学の視点から理解を深める。	本授業は，コミュニティデザイン学科専門科目に含まれ，「新たなまちづくりに向けて制度を設計し政策を提案することができる能力」及び「地域で主体的・協働的に行動し，活力あるコミュニティの形成に貢献できる能力」の養成に必要な，福祉社会学の視点の涵養という点で，学習・教育目標と関連している。	現代社会の福祉の問題について，その背景を理解すると同時に，現代社会における福祉の問題を自ら発見し，その解決のためにどのような方向性が存在するのかを見出せるようになることを目標とする。								0.5	0.5
現代日本社会論	日本における貧困問題を様々な角度から検討していく。	人間の営みに関する広い事象・現象に対して積極的に目を向けることに関連する。また，社会から排除されがちな人々の「生」の厳しさの背景にあるものを理解し，かれらの「生」を通じて自己の「生」や価値観を問い直す態度や視点を要請することに関連する。	ホームレスの人々の現実や子どもの貧困に目を向けながら，他者に対する想像力や共感について考えるとともに，自分自身の価値観や日本社会の仕組みなどを批判的にみる力を養う。					1				
ストレスマネジメント	社会に生きる私たちは，常に自分中心に物事が進み，自分だけが快適に生活することなどできないということを知っている。周囲の人々も同様であり，皆，思い通りにはならない現実と折り合いをつけながら生活している。その意味で，誰もストレスと無縁に生活することはできない。しかし，ストレスの感じ方・表出の仕方には大きな個人差があり，ストレスにうまく対処できている人もいれば，悩み続けて，本来の能力を発揮できない人もいる。本授業では，ストレスについての理論を学んだ上で，自己のストレスについての理解を図り，各自に適したストレス・マネジメント法を実践を通して身につける。授業で取り扱うストレス・マネジメントには，自己の内面の調整，対人関係の調整，環境の調整が含まれる。そのようなストレス・マネジメントスキルを身につけることで，地域社会において対人関係を円滑にし，個人としてのみではなく，集団としても，うまく機能できるようになることを目的とする。	コミュニティデザイン学科専門科目地域実践科目群の科目として，「地域社会の課題を発見するとともに，分析することができる能力」を身に付ける。「地域で主体的・協働的に行動し，活力あるコミュニティの形成に貢献できる能力」を身に付ける。	ストレスについての理論を学んだ上で，自己のストレスについての理解を図り，各自に適したストレス・マネジメント法を実践を通して身につける。						0.5			0.5
防災マネジメントⅠ	近年，地震，津波，洪水，土石流，高潮，竜巻など過去に例をみないような自然災害が頻発しています。本講義は，これらの自然災害の発生メカニズム，防御?軽減対策，災害時の危機管理および災害後の復旧に向けた防災計画の立案・策定に必要な基礎知識を身につけることをねらいとしています。	コミュニティデザイン学科専門科目他学科科目として，地域社会の現状と成り立ちを幅広い視点から理解することができる能力を身に付ける。社会基盤デザイン学科の学習・教育目標「（F）社会基盤整備の実務上の問題に専門知識を適用・発展することができる」「（G）社会基盤の世界的動向を把握して，グローバルな技術展開ができる」「（H）社会基盤整備による問題解決のための適切な施策を提案することができる」に寄与する。	本講義では，1．災害の特性や発生メカニズムに関する知識を身につける。2．平時の防災対策，災害発生後の危機管理の基本や災害後の復旧を視野に入れた防災マネジメントの考え方を身につける。3．さらに国内外を問わず行われている先進事例を含め，実社会における防災対策の実現に向けた視点と留意点を理解することを目標とします。					1				
流域環境学Ⅰ	本講義では，河川はもとよりその流域と社会とのかかわりを，地形，治水，利水，環境などの視点から理解を深める．また実際に起こっている問題を取り上げて，クラスで討議する．	コミュニティデザイン学科専門科目他学科科目として，地域社会の現状と成り立ちを幅広い視点から理解することができる能力を身に付ける。	河川工学および海岸工学について，地球規模から砂一粒にいたる多様な基礎事項を理解する。河川工学および海岸工学が取り組む具体的問題を把握し，自分の考えを述べることができる。					1				

授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目との関連 ディプロマポリシーの項目記号 達成目標（ディプロマポリシー）の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2,・・・,0.9, 1.0の数値で表す								
				A	B	C	D	E	F	G	H	I
都市計画	都市計画は，土木，建築，造園等の技術を都市のスケールで展開する分野であり，我々の生活を支えるルールの一つともいえます。身近な日常生活の問題がどのように扱われているか考えましょう。一方で，時代の大きな変化のなかで，新しい都市計画のシステムが模索されています。次の世代を担う君たちのライフスタイルにあった都市環境はどうあるべきか学びましょう。	社会基盤デザイン学科の学習・教育目標「（E）自然科学の基礎理論と社会基盤整備のための専門的な基礎知識が理解できる。」に寄与する。（社会基盤デザイン学科の学習・教育目標については履修案内（地域デザイン科学部）等を参照）	都市計画の特徴は，基本的な用語の概念を正確に理解することから始まります。教科書の構成とキーワードを丁寧に学習してください。それを用いて，都市を語れるようになることが目標です。					1				
地区計画	前半は佐藤教員が，また後半は長田教員が行う。日常生活の身近な範囲である地区を主な対象として，まちづくりとコミュニティの概念の基礎的な理解をもとに，住民参加を推進するコミュニティ計画，地区計画のあり方を解説する。さらに，市街地の具体的な事例を通して計画の進め方と事業制度の根拠を学ぶ。	コミュニティデザイン学科専門科目他学科科目として，地域社会の現状と成り立ちを幅広い視点から理解することができる能力を身に付ける。	1．法定地区計画および自治体まちづくり条例にもとづく地区計画など，地区レベルの計画に必要な基礎的な概念と手法として下記を修得する。1）まちづくりの概念と地区計画との係わり2）まちづくり条例とまちづくり規範3）コミュニティと住民参加2．具体的な事例を通して，地区計画の内容と整備手法を理解する。					1				
高齢者防災論	心身機能が衰えてくる高齢期には，それまでにない災厄に見舞われやすくなってしまいます。ただ災厄といっても，天災・人災から事故や犯罪などさまざまです。本科目では，高齢者をはじめとする乳幼児・障がい者ら災害弱者に対する防災について広く学び考えることで，万人の安心と安全につながる知識を得ることを目指します。具体的には，災厄の種類と特徴，安心と安全の関係，高齢者等の感覚・知覚・行動・心理の特性，日常生活での予防，罹災時の対応，罹災後のケアなどをテーマにしていく。	コミュニティデザイン学科専門科目他学科科目として，地域社会の現状と成り立ちを幅広い視点から理解することができる能力を身に付ける。	本講義によって，高齢者の特性や被災時の人の行動について理解し，災害弱者をはじめとした様々な人々の防災に役立つ知識を得ることを，を目標とします。					1				
外国語文献講読	社会科学領域における英語文献は，個々の文章に真正面から向き合えば必ず読みこなせる類のものである。この授業では，量よりも質を重視し，ひとまとまりの英文（社説や評論）を丁寧に読むことに徹する。	思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し，実証的かつ合理的に考察することができる。コミュニティデザイン学科専門科目主題探究科目群の科目として，「地域デザインに関する共通的リテラシー」を身に付ける	散文とは異なり，社会科学領域の英文はA＋B＝Cといった単純な足し算に近いものがある。まずは一つ一つの文章の意味を正確に把握し，文章と文章の間の「つなぎ」を意識しつつ，段落（パラグラフ）におけるポイントを押さえる。そしてさらに，段落と段落の間がどのような論理展開でつながっているのか理解できるようにする。母国語でなくても英語も人間が思考した表現形態の一つと考えれば，その内容は必ず理解できる。		1								
外国語文献講読	社会科学領域における英語文献は，個々の文章に真正面から向き合えば必ず読みこなせる類のものである。この授業では，量よりも質を重視し，ひとまとまりの英文（社説や評論）を丁寧に読むことに徹する。	思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し，実証的かつ合理的に考察することができる。コミュニティデザイン学科専門科目主題探究科目群の科目として，「地域デザインに関する共通的リテラシー」を身に付ける	散文とは異なり，社会科学領域の英文はA＋B＝Cといった単純な足し算に近いものがある。まずは一つ一つの文章の意味を正確に把握し，文章と文章の間の「つなぎ」を意識しつつ，段落（パラグラフ）におけるポイントを押さえる。そしてさらに，段落と段落の間がどのような論理展開でつながっているのか理解できるようにする。母国語でなくても英語も人間が思考した表現形態の一つと考えれば，その内容は必ず理解できる。		1								
コミュニティデザイン演習（経済政策分野）	１年次の地域コミュニケーション演習，3年次の地域プロジェクト演習などにおいて養った理論的な知識と実践的な能力をもとに，各担当教員の専門分野における少人数による演習形式の授業を行う。具体的には，地域の経済に関わるテーマの中で，学生が課題を実際の現場との関わりにおいて見い出し，文献研究と同時に現地に身を置く中で，自ら設定した課題の解決を目指す。関連文献・理論の輪読，地域調査・分析の方法など実践的な理論と手法に関する知識・技術を深める。	コミュニティデザイン学科専門科目主題探究科目群の科目として，「地域デザインを専門とする職業人としての倫理観」を養う。「地域社会の課題を発見するとともに，分析することができる能力」を身に付ける。「地域で主体的・協働的に行動し，活力あるコミュニティの形成に貢献できる能力」を身に付ける。	関連文献・理論の輪読，地域調査・分析の方法など実践的な理論と手法に関する知識・技術を深める。				0.2		0.4			0.4
コミュニティデザイン演習（文化マネジメント分野）	・2年次後期「文化マネジメント」を通して，文化事業の構想から社会への還元までを考えてきた。・本時はその応用領域として，文化事業に係わるさまざまな問題の発見と解決，プロジェクトの立案と具体化を進める。・特にメインとなるのは，文化事業を実際に企画・運営することであり，8月の第2週の日曜日に予定する。・また，あらゆる文化資産の事業化，そのプロデュースやマネジメントの機会があれば，プロジェクトのテーマ（授業計画）は協議のうえ変更する。・授業の中盤からは集中講義形式となる。	・コミュニティデザイン学科専門科目主題探究科目群の科目として，「地域デザインを専門とする職業人としての倫理観」を養う。「地域社会の課題を発見するとともに，分析することができる能力」を身に付ける。「地域で主体的・協働的に行動し，活力あるコミュニティの形成に貢献できる能力」を身に付ける。	・わが国の宝といえる多様で豊かな地域文化を活用することが文化マネジメントの使命である。・地域の「遺産」を心の「資産」とすることが肝要であり，さらなる創造を目標とせねばならない。・本時の到達目標は，各人の「感性」をより深めてゆくことであり，この半期間はその手がかりに過ぎない。				0.2		0.4			0.4
コミュニティデザイン演習（地方自治分野）	１年次の地域コミュニケーション演習，3年次の地域プロジェクト演習などにおいて養った理論的な知識と実践的な能力をもとに，各担当教員の専門分野における少人数による演習形式の授業を行う。具体的には，地域の経済に関わるテーマの中で，学生が課題を実際の現場との関わりにおいて見い出し，文献研究と同時に現地に身を置く中で，自ら設定した課題の解決を目指す。関連文献・理論の輪読，地域調査・分析の方法など実践的な理論と手法に関する知識・技術を深める。	コミュニティデザイン学科専門科目主題探究科目群の科目として，「地域デザインを専門とする職業人としての倫理観」を養う。「地域社会の課題を発見するとともに，分析することができる能力」を身に付ける。「地域で主体的・協働的に行動し，活力あるコミュニティの形成に貢献できる能力」を身に付ける。	関連文献・理論の輪読，地域調査・分析の方法など実践的な理論と手法に関する知識・技術を深める。				0.2		0.4			0.4
コミュニティデザイン演習（農村マネジメント分野）	１年次の地域コミュニケーション演習，3年次の地域プロジェクト演習などにおいて養った理論的な知識と実践的な能力をもとに，各担当教員の専門分野における少人数による演習形式の授業を行う。具体的には，地域の経済に関わるテーマの中で，学生が課題を実際の現場との関わりにおいて見い出し，文献研究と同時に現地に身を置く中で，自ら設定した課題の解決を目指す。関連文献・理論の輪読，地域調査・分析の方法など実践的な理論と手法に関する知識・技術を深める。	コミュニティデザイン学科専門科目主題探究科目群の科目として，「地域デザインを専門とする職業人としての倫理観」を養う。「地域社会の課題を発見するとともに，分析することができる能力」を身に付ける。「地域で主体的・協働的に行動し，活力あるコミュニティの形成に貢献できる能力」を身に付ける。	関連文献・理論の輪読，地域調査・分析の方法など実践的な理論と手法に関する知識・技術を深める。				0.2		0.4			0.4

授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目との関連 ディプロマポリシーの項目記号 達成目標（ディプロマポリシー）の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2,・・・,0.9, 1.0の数値で表す								
				A	B	C	D	E	F	G	H	I
コミュニティデザイン演習（地域生態学分野）	１年次の地域コミュニケーション演習，3年次の地域プロジェクト演習などにおいて養った理論的な知識と実践的な能力をもとに，各担当教員の専門分野における少人数による演習形式の授業を行う。具体的には，地域の経済に関わるテーマの中で，学生が課題を実際の現場との関わりにおいて見い出し，文献研究と同時に現地に身を置く中で，自ら設定した課題の解決を目指す。関連文献・理論の輪読，地域調査・分析の方法など実践的な理論と手法に関する知識・技術を深める。	コミュニティデザイン学科専門科目主題探究科目群の科目として，「地域デザインを専門とする職業人としての倫理観」を養う。「地域社会の課題を発見するとともに，分析することができる能力」を身に付ける。「地域で主体的・協働的に行動し，活力あるコミュニティの形成に貢献できる能力」を身に付ける。	関連文献・理論の輪読，地域調査・分析の方法など実践的な理論と手法に関する知識・技術を深める。				0.2		0.4			0.4
コミュニティデザイン演習（食生活学分野）	１年次の地域コミュニケーション演習，3年次の地域プロジェクト演習などにおいて養った理論的な知識と実践的な能力をもとに，各担当教員の専門分野における少人数による演習形式の授業を行う。具体的には，地域の経済に関わるテーマの中で，学生が課題を実際の現場との関わりにおいて見い出し，文献研究と同時に現地に身を置く中で，自ら設定した課題の解決を目指す。関連文献・理論の輪読，地域調査・分析の方法など実践的な理論と手法に関する知識・技術を深める。	コミュニティデザイン学科専門科目主題探究科目群の科目として，「地域デザインを専門とする職業人としての倫理観」を養う。「地域社会の課題を発見するとともに，分析することができる能力」を身に付ける。「地域で主体的・協働的に行動し，活力あるコミュニティの形成に貢献できる能力」を身に付ける。	関連文献・理論の輪読，地域調査・分析の方法など実践的な理論と手法に関する知識・技術を深める。				0.2		0.4			0.4
コミュニティデザイン演習（まちづくり分野）	１年次の地域コミュニケーション演習，3年次の地域プロジェクト演習などにおいて養った理論的な知識と実践的な能力をもとに，各担当教員の専門分野における少人数による演習形式の授業を行う。具体的には，地域の経済に関わるテーマの中で，学生が課題を実際の現場との関わりにおいて見い出し，文献研究と同時に現地に身を置く中で，自ら設定した課題の解決を目指す。関連文献・理論の輪読，地域調査・分析の方法など実践的な理論と手法に関する知識・技術を深める。	コミュニティデザイン学科専門科目主題探究科目群の科目として，「地域デザインを専門とする職業人としての倫理観」を養う。「地域社会の課題を発見するとともに，分析することができる能力」を身に付ける。「地域で主体的・協働的に行動し，活力あるコミュニティの形成に貢献できる能力」を身に付ける。	関連文献・理論の輪読，地域調査・分析の方法など実践的な理論と手法に関する知識・技術を深める。				0.2		0.4			0.4
コミュニティデザイン演習（公共マネジメント分野）	１年次の地域コミュニケーション演習，3年次の地域プロジェクト演習などにおいて養った理論的な知識と実践的な能力をもとに，各担当教員の専門分野における少人数による演習形式の授業を行う。具体的には，地域の経済に関わるテーマの中で，学生が課題を実際の現場との関わりにおいて見い出し，文献研究と同時に現地に身を置く中で，自ら設定した課題の解決を目指す。関連文献・理論の輪読，地域調査・分析の方法など実践的な理論と手法に関する知識・技術を深める。	コミュニティデザイン学科専門科目主題探究科目群の科目として，「地域デザインを専門とする職業人としての倫理観」を養う。「地域社会の課題を発見するとともに，分析することができる能力」を身に付ける。「地域で主体的・協働的に行動し，活力あるコミュニティの形成に貢献できる能力」を身に付ける。	関連文献・理論の輪読，地域調査・分析の方法など実践的な理論と手法に関する知識・技術を深める。				0.2		0.4			0.4
コミュニティデザイン演習（公共政策分野）	１年次の地域コミュニケーション演習，3年次の地域プロジェクト演習などにおいて養った理論的な知識と実践的な能力をもとに，各担当教員の専門分野における少人数による演習形式の授業を行う。具体的には，地域の経済に関わるテーマの中で，学生が課題を実際の現場との関わりにおいて見い出し，文献研究と同時に現地に身を置く中で，自ら設定した課題の解決を目指す。関連文献・理論の輪読，地域調査・分析の方法など実践的な理論と手法に関する知識・技術を深める。	コミュニティデザイン学科専門科目主題探究科目群の科目として，「地域デザインを専門とする職業人としての倫理観」を養う。「地域社会の課題を発見するとともに，分析することができる能力」を身に付ける。「地域で主体的・協働的に行動し，活力あるコミュニティの形成に貢献できる能力」を身に付ける。	関連文献・理論の輪読，地域調査・分析の方法など実践的な理論と手法に関する知識・技術を深める。				0.2		0.4			0.4
コミュニティデザイン演習（社会教育分野）	１年次の地域コミュニケーション演習，3年次の地域プロジェクト演習などにおいて養った理論的な知識と実践的な能力をもとに，各担当教員の専門分野における少人数による演習形式の授業を行う。具体的には，地域の経済に関わるテーマの中で，学生が課題を実際の現場との関わりにおいて見い出し，文献研究と同時に現地に身を置く中で，自ら設定した課題の解決を目指す。関連文献・理論の輪読，地域調査・分析の方法など実践的な理論と手法に関する知識・技術を深める。	コミュニティデザイン学科専門科目主題探究科目群の科目として，「地域デザインを専門とする職業人としての倫理観」を養う。「地域社会の課題を発見するとともに，分析することができる能力」を身に付ける。「地域で主体的・協働的に行動し，活力あるコミュニティの形成に貢献できる能力」を身に付ける。	関連文献・理論の輪読，地域調査・分析の方法など実践的な理論と手法に関する知識・技術を深める。				0.2		0.4			0.4
コミュニティデザイン演習（福祉社会学分野）	１年次の地域コミュニケーション演習，3年次の地域プロジェクト演習などにおいて養った理論的な知識と実践的な能力をもとに，各担当教員の専門分野における少人数による演習形式の授業を行う。具体的には，地域の経済に関わるテーマの中で，学生が課題を実際の現場との関わりにおいて見い出し，文献研究と同時に現地に身を置く中で，自ら設定した課題の解決を目指す。関連文献・理論の輪読，地域調査・分析の方法など実践的な理論と手法に関する知識・技術を深める。	コミュニティデザイン学科専門科目主題探究科目群の科目として，「地域デザインを専門とする職業人としての倫理観」を養う。「地域社会の課題を発見するとともに，分析することができる能力」を身に付ける。「地域で主体的・協働的に行動し，活力あるコミュニティの形成に貢献できる能力」を身に付ける。	関連文献・理論の輪読，地域調査・分析の方法など実践的な理論と手法に関する知識・技術を深める。				0.2		0.4			0.4
コミュニティデザイン演習（心理学分野）	１年次の地域コミュニケーション演習，3年次の地域プロジェクト演習などにおいて養った理論的な知識と実践的な能力をもとに，各担当教員の専門分野における少人数による演習形式の授業を行う。具体的には，地域の経済に関わるテーマの中で，学生が課題を実際の現場との関わりにおいて見い出し，文献研究と同時に現地に身を置く中で，自ら設定した課題の解決を目指す。関連文献・理論の輪読，地域調査・分析の方法など実践的な理論と手法に関する知識・技術を深める。	コミュニティデザイン学科専門科目主題探究科目群の科目として，「地域デザインを専門とする職業人としての倫理観」を養う。「地域社会の課題を発見するとともに，分析することができる能力」を身に付ける。「地域で主体的・協働的に行動し，活力あるコミュニティの形成に貢献できる能力」を身に付ける。	関連文献・理論の輪読，地域調査・分析の方法など実践的な理論と手法に関する知識・技術を深める。				0.2		0.4			0.4
コミュニティデザイン演習（観光地理学分野）	１年次の地域コミュニケーション演習，3年次の地域プロジェクト演習などにおいて養った理論的な知識と実践的な能力をもとに，各担当教員の専門分野における少人数による演習形式の授業を行う。具体的には，地域の経済に関わるテーマの中で，学生が課題を実際の現場との関わりにおいて見い出し，文献研究と同時に現地に身を置く中で，自ら設定した課題の解決を目指す。関連文献・理論の輪読，地域調査・分析の方法など実践的な理論と手法に関する知識・技術を深める。	コミュニティデザイン学科専門科目主題探究科目群の科目として，「地域デザインを専門とする職業人としての倫理観」を養う。「地域社会の課題を発見するとともに，分析することができる能力」を身に付ける。「地域で主体的・協働的に行動し，活力あるコミュニティの形成に貢献できる能力」を身に付ける。	関連文献・理論の輪読，地域調査・分析の方法など実践的な理論と手法に関する知識・技術を深める。				0.2		0.4			0.4

授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目との関連 ディプロマポリシーの項目記号 達成目標（ディプロマポリシー）の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2,・・・,0.9, 1.0の数値で表す								
				A	B	C	D	E	F	G	H	I
卒業研究 準備演習	卒業研究に結び付く研究テーマの絞り込みを目的として，学生は地域の課題または教員の研究テーマから主指導教員1名を選択し，その指導の下で，自己の興味関心に関連した文献収集，先行文献の整理，現場視察，関連する統計資料の収集と整理などを本格的に行う。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し，論理的な考察を加えてこれを文章化する力を養う。またその内容を口頭で発表し，かつ生産的な議論を行う。上記の事柄に必要な外国語や情報科学の習熟も目指す。	コミュニティデザイン学科専門科目主題探究科目群の科目として，「地域デザインを専門とする職業人としての倫理観」を養う。「地域社会の課題を発見するとともに，分析することができる能力」を身に付ける。「地域で主体的・協働的に行動し，活力あるコミュニティの形成に貢献できる能力」を身に付ける。	専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し，論理的な考察を加えてこれを文章化する力を養う。またその内容を口頭で発表し，かつ生産的な議論を行う。上記の事柄に必要な外国語や情報科学の習熟も目指す。				0.2		0.4			0.4
卒業研究	専門分野に関する創造的な学修・研究活動を行い，専門知識・技術の実践的な応用力を培うことを目的とする。具体的には，学生が自ら研究テーマを設定し，そのテーマに基づいて，先行研究の整理，関連する理論的検討を重ね，フィールド調査，定性・定量データの収集と解析，分析結果のまとめ，提言等の作業を総体として行う。学部学生の集大成である卒業論文の完成を目指して毎回の指導で段階的に文章を書き上げる形で進めていく。コミュニティデザインの領域において，各自が設定したテーマについて，現場での調査や文献研究を徹底的に掘り下げつつ行う。	コミュニティデザイン学科専門科目主題探究科目群の科目として，「地域デザインを専門とする職業人としての倫理観」を養う。「地域社会の課題を発見するとともに，分析することができる能力」を身に付ける。「地域で主体的・協働的に行動し，活力あるコミュニティの形成に貢献できる能力」を身に付ける。	コミュニティデザインの領域において，各自が設定したテーマについて，現場での調査や文献研究を徹底的に掘り下げつつ行う。専門分野に関する創造的な学修・研究活動を行い，専門知識・技術の実践的な応用力を培う。				0.2		0.4			0.4
リフレクション	４年間の学修を省察し，自らの学びの軌跡をまとめながら，基盤教育・専門教育で培った学生個人の能力を確認する。学生は，ポートフォリオの集約を基に内容をまとめ，最終的にはポスター発表する。	コミュニティデザイン学科専門科目主題探究科目群の科目として，「地域で主体的・協働的に行動し，活力あるコミュニティの形成に貢献できる能力」を身に付ける。	４年間の学修を省察し，自らの学びの軌跡をまとめながら，基盤教育・専門教育で培った学生個人の能力を確認する。									1